

第1章

トーナメントの申し込み方

1. トーナメントの資料を手に入れる方法

公式トーナメントや公認ジュニアトーナメントについては、関東テニス協会や各都県テニス協会から年間スケジュールが発表されます。各都県のテニス協会に問い合わせてもスケジュールを教えてください。

各トーナメントに関する申込要項は、申込時期になるとテニスクラブ、学校などに送られてきたり、指定されたテニスショップ、大会主催者のホームページなどで入手することができます。テニス雑誌に広告が出たりすることもあるので気をつけておきましょう。主催者である協会、クラブ、学校、市町村の担当者に直接請求して得ることもできます。

早めに主催者に問い合わせる入手方法を確認しましょう。

2. エントリー申込方法

大会要項の注意書きをよく読んでください。申込書には、名前、住所、所属、性別、生年月日（これはあなたの出場年齢区分を決める上で大切）を正確に記入します。

公認ジュニアトーナメントに申し込む場合には、関東テニス協会に登録した個人登録番号を正しく記入する必要があります。

以前のトーナメントでの成績の欄については、大会名、何回戦まで進出したか、ランキングなどを正しく記入しましょう。このデータは、あなたが出場しようとするトーナメントにおいて主催者がドロー(組み合わせ)を作成する際の参考資料となる場合があります。親やコーチに申込書を書くのを頼むのではなく、自分自身で記入しましょう。

参加費用の支払い方法も各大会で違います。要項をよく確認して支払しましょう。参加料の取り扱い(返金等)については、事前に主催者に確認しておきましょう。

3. どの区分にエントリーするか

ジュニアの大会は普通、18歳以下、16歳以下、14歳以下、12歳以下、等年齢により、区分されています。年齢の基準は、1月1日から12月31日までです。通常は、自分自身の年齢区分にエントリーしますが、上の年齢区分にエントリーしてもかまいません。ただし、都県ジュニア選手権大会以外のグレード③の大会とグレード④の大会については、実年齢区分より2区分以上上の種目(例:14歳以下の選手が18歳以下、12歳以下の選手が16歳以下・18歳以下)に出場してもポイントはつきませんので注意して申し込みましょう。また、10歳以下の選手が14歳以下、16歳以下、18歳以下の種目に出場することはできますが、ポイントは付きません。

*大会グレード・ポイントについてはP13に詳しく書かれています。

4. ダブルエントリーについて

ダブルエントリーとは、大会要項に記載されている本戦日程が重複している2つ以上の大会に申し込んでいる状態を意味します。予選及び予備日は本戦の日程とはみなしません。大会要項で、本戦と予選の日程を区別して発表していない大会はすべて本戦の日程となります。本戦が1日でも重複している大会にエントリーした場合は、どちらかを選んで出場してください。出場する大会を決めたら、欠場する大会の主催者に欠場大会の本戦初日の前日(17:00)までに「欠場届」を提出してください。

本戦が重複している2つ以上の大会(本戦)に出場したり、欠場届を提出しないと両大会(2大会以上重複している場合はそれらすべての大会)とも予選ポイントも含め「0ポイント」となります。(ランキング対象大会には加えない)本戦日程が大会要項上で1日でも重なっていたら「0ポイント」になりますので注意しましょう。

要項において、種目別に本戦日程が発表されている大会は種目ごとの日程が基準になります。

- 例1) 2大会に申し込んだ選手が、両大会とも最初から本戦に出場できた場合
どちらかを選んで出場してください。その時は欠場する大会の主催者に対して本戦初日の前日(17:00)までに、欠場届を提出してください。
- 例2) 2大会とも予選から勝ち上がり、本戦日程が重なっている場合
どちらかを選んで出場してください。その時は欠場する大会の主催者に対して本戦初日の前日(17:00)までに、欠場届を提出してください。
- 例3) 1大会は本戦から出場、1大会は予選を勝ち上がり本戦出場になった場合
どちらかを選んで出場してください。その時は欠場する大会の主催者に対して本戦初日の前日(17:00)までに、欠場届を提出してください。
- 例4) 実際に行われた本戦日程がたまたま重複せず、両大会とも支障なく試合ができた場合でも、大会要項の日程が重なっていれば「0ポイント」となります。また、出場しなくても、欠場届を出さなかった場合は出場したとみなし「0ポイント」となります。

例外として、

- ① 日本テニス協会・関東テニス協会主催のジュニアトーナメントと公認大会が重複した場合には、出場した両大会ともポイントが与えられます。
- ② 公認トーナメントと各都県高体連、中体連(中テ連)の主催するポイント対象大会が重複した場合は両大会のポイントが与えられます。

5. 大会の欠場について

大会に参加できなくなった時は、必ず主催者にその理由を明記して欠場届を提出しましょう。関東テニス協会では受け付けいたしません。

欠場届には、氏名、登録番号、種目とドロー番号、所属団体名、電話番号、欠場理由を明記してください。用紙は関東テニス協会ホームページより、ダウンロードできます。

この場合には、相手選手のWO(ウォークオーバー)による不戦勝となります。

6. ダブルスの申し込み

シングルスと同時にダブルスのトーナメントが開催される場合も少なくありません。ダブルスはペアの試合であるため、あなたのパートナーに対する思いやりや感謝の気持ちについて学ぶことができます。

エントリーに際しては、申し込み要項に合うパートナーを決めて申し込みましょう。同じ所属で同じ年齢区分の人とペアを組む場合は問題がありませんが、トーナメントによって、他の所属や他県の人とペアを組む場合について規定がある場合は、要項をよく読んで、誤りのないように申し込んでください。

公認ジュニアトーナメントでは同一大会で、シングルスとダブルスを異なる年齢区分に申し込むことはできません。

例：16歳以下の選手が18歳以下の選手と組んで18歳以下のダブルスに申し込む場合
シングルスも18歳以下での参加となります。

また、一つの大会で異なる年齢種目に重複してエントリーできません。ドローに氏名が載ったり、出場してしまった場合は両種目とも失格となり、すべて0ポイントになります。

7. 締切日に遅れないように

大会要項に書かれてある申し込み締切日に遅れない様に余裕を持って申し込みましょう。いったん申し込みが締め切られたら、エントリーすることはできません。

第2章

トーナメントへ出場するための準備

1. 予定の確認

試合の予定日に他の行事や約束がないことを確かめておきます。家族の予定もチェックしておきましょう。

2. 試合の時間に間に合うように

あなたの試合がいつあるのかを知る必要があります。

- ① 集合時間（出席を届ける時間）が決められている大会は、その時刻までに試合のできる服装で出席を届け出てください。決められた時刻までに出席を届けない場合は失格となりますので、遅れないよう十分気をつけましょう。
- ② 前もってスケジュールが発表され、自分の試合の時間にコートに入ればよい大会ではもし、試合時刻に遅れたり、行けなかった場合には、ノーショウになります。プレイヤー

がノーショーになる場合の時間は、日本テニス協会のルールに従いトーナメントレフェリーの判断によりなされます。

3. 天 候

雨が降ったり、天気が不確かな場合にも会場に集合して指示を待つのが普通です。トーナメントによっては、電話での問い合わせができる場合もありますが、特別な指示がない限りは会場に集合するのが原則になっています。

天候が疑わしい場合には、中止と思わないで下さい。雨は場所によって降らないこともありますし、雨がやむとすぐできる会場もあるからです。

4. 会場の確認

会場の住所や交通手段を確認して、トーナメントの会場にはどのように行ったらよいか注意深く調べておきましょう。休日と平日のダイヤが異なるのが普通ですから、開催日のダイヤを調べるのが大切です。車で行く場合には渋滞を考えるのは言うまでもありません。

5. 食 事

会場または会場の近くに食堂がある場合にはそこで済ますこともできますが、わからない場合には弁当、飲物を用意して行きましょう。

6. 熱中症対策

夏のジュニア大会・学校大会は、きびしい暑さの中で実施されています。体調をくずさないためにも、こまめな水分補給と氷の準備をしてください。試合コートには十分な水分を持って入りましょう。また、待機しているときは日陰で過ごすようにしましょう。

具合が悪くなったら、無理をせずレフェリーを呼びましょう。

7. 緊急の場合の準備

テニスウェアの予備、ラケットの予備、救急用品、その他自分が必要と思うものを用意しておきましょう。交通費、食事、電話などのためのお金も用意しておく必要があります。

第3章

トーナメント用語

1. 公式トーナメントと公認ジュニアトーナメント

公式トーナメントとは、公に認められている団体が主催するトーナメントの意味で、そのトーナメントの記録が選手選考などの正式な資料となります。関東テニス協会にとっては、(財)日本テニス協会、高等学校体育連盟、中学校テニス連盟と関東テニス協会主催のトーナメントを指します。

ジュニアトーナメントは18歳以下、16歳以下、14歳以下、12歳以下、等年齢区分される他に、高校大会(18歳以下)、中学大会(15歳以下)、小学大会(12歳以下)の区分があります。その中でトーナメントの記録が関東ジュニアコンピューターランキングのデータになるものを関東テニス協会の公認ジュニアトーナメントと言います。公認ジュニアトーナメントには、(公財)日本テニス協会や関東テニス協会が主催するトーナメントと、学校の連盟が主催するトーナメント、都県テニス協会やクラブなどが主催するトーナメントのうち、関東テニス協会が承認したトーナメントがあります。クラブなどが主催するトーナメントは、トーナメントディレクターが関東テニス協会に公認を申請して、関東テニス協会から正式に承認されたときに公認ジュニアトーナメントとなります。

2. ランキング

関東テニス協会ではジュニアコンピューターランキングを毎月末発表しています。これはプレイヤーが出場した公認ジュニアトーナメントにおける成績をポイントとして計算して決めています。高校、中学、小学校大会で全国大会の予選となる大会の成績も含まれます。(都県大会についてはシングルスベスト32、ダブルスベスト16より対象)

ランキングは過去の成績に対して与えられるものですが、これから行われるトーナメントの選手選考などの重要な資料となります。

ランキングは、1年間を基準とした切れ目のない通年のランキングで、出場した大会で獲得したポイントの上位5大会を合計したもので評価されます。大会に出場しポイントを取得した後、1年経過して同じ大会が行われると前年にその大会で取得したポイントは消え新しいポイントに切り替わります。

ランキングは、年齢、種目に関係なく、18歳以下すべてのジュニアプレイヤーを対象にランキング順位をつけて発表されますが、関東テニス協会ホームページで確認する際は、年齢別、都県別などに抽出して見ることができます。

3. シード選手

シードする理由は、大会参加選手の中で、上位の実力の選手が早い回戦で当るのを避けるためです。

ドローを作成するときには、4人に1人を基本とし、シード選手として選考します。

関東テニス協会主催の大会では、原則として、選手選考のコンピューターランキングに従ってシード順位を決定しています。

4. ドローとドロー作成方法

公認大会はトーナメント（勝ち上がり）方式によって行われます。大会には参加数の決まっている大会と、参加数に制限が無い大会とがあります。

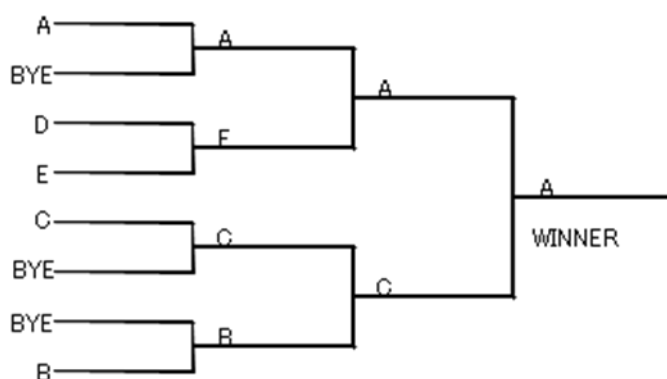
エントリー締め切り後、トーナメント委員会は申し込み者の中から選考基準に従って出場者を決定します。

まず、シード選手の位置を決め、その後、残りの選手が抽選でドロー（組み合わせ）に記載されていきます。シード選手の位置は日本テニス協会のトーナメント競技規則に準じています。

参加者数が 4、8、16、32、64 またはそれ以上の 2 の累乗のときは、すべてのプレイヤーは 1 回戦からトーナメント方式で対戦します。

参加者数がそれ以外の場合は、1 回戦で対戦相手のいない場合があります。それをBYE（バイ）と言います。BYE はシード順位の上位者から順番に与えられ、シード数より多い場合はドローの各区画に、できるだけ平均になるよう抽選で決まります。

BYE のあるシングルストーナメントの例を以下に示します。



5. トーナメントレフェリー、SCU（ソロチェアアンパイア）、ロービングアンパイア

トーナメントレフェリーはトーナメントの期間中、プレイに関して一切の公式な最終決定を下すのが任務です。起こった疑問や問題は、レフェリーに判断をあおぎます。

アンパイアのつかない（セルフジャッジの）試合では、ロービングアンパイアがおかれます。ロービングアンパイアは担当するコートでトーナメントレフェリーの仕事を代行します。ロービングアンパイアでは解決できない問題は、最終的にはトーナメントレフェリーが判断します。

SCU 方式による試合方法は次の通りです。

- 1) SCU はライン以外の判定を行う。
- 2) 選手は自分の側のラインの判定をする。
選手がグッドのボールをアウト（またはフォールト）とコールして、それを SCU に

オーバールールされると失点となります。

- 3) サービスの「ネット」、隣のコートからボールが入って来る等の事でラリーを止める時の「レット」は SCU がコールします。

6. ペナルティー規定

関東テニス協会では、1996年の関東ジュニアテニス選手権大会からペナルティー制を導入いたしました。また2012年に規程を変更を行いました。これは、ジュニアの皆さんがコート上の技術だけではなく、あらゆる面で高いレベルにあってほしいとの願いからです。

決して罰することを目的としたものではなく、選手がスポーツマンシップに則りコートマナーやルールを理解し、プレイヤーとして責任ある言動を守ることを目的として定められたものです。

関東テニス協会ジュニアテニストーナメント ペナルティー（罰則）規定

1. この規定は関東テニス協会に個人登録している選手全員が対象です。
2. この規定が適用されるトーナメントは次の通りです。
 - ① 関東テニス協会および各都県テニス協会が主催するジュニアトーナメント
 - ② 関東テニス協会公認のジュニアトーナメントすべて
3. 主な違反事項

	違反事項
1	正当な理由のない試合途中放棄
2	正当な理由のない大会公式行事の無断欠席
3	試合中の不当な遅延行為
4	試合中のコーチング
5	試合中のボール、ラケットおよび用具の乱用
6	試合中のあらゆる人に対する言葉による侮辱、暴力行為
7	試合中および会場内でのスポーツマンシップに反する行為

4. ポイントペナルティ制度

試合のコート上で、コード違反をした選手はレフェリー、アシスタントレフェリー、ロービングアンパイアまたは SCU からポイントペナルティ制度に従ってペナルティが科せられます。

*1 回目の違反 警告

*2 回目の違反 1 ポイント失う

*3 回目以降の違反 その都度 1 ゲーム失う

3 回目以降の違反の場合は違反の度に「失格」にするかどうかを、レフェリーが判断します。

ただし、重大で、悪質なコード違反の場合は 1 回目であってもレフェリーが失格を決定することができる。

5. このペナルティーは、試合中はもちろん、大会期間中、選手に対して宣告されます。
6. 宣告されたペナルティーについては、その翌日にトーナメント会場内に氏名と内容が公表され掲示されます。
7. 「失格」になった選手は、
 - ① コンピューターランキングの獲得ポイントが0ポイントになり、失格となった大会がランキング対象大会5大会の1つに加えられます。
 - ② 関東テニス協会ジュニア大会運営委員会において1年間の出場停止になる場合もあります。

第4章

トーナメント会場についたら

1. 受付とドロウのチェック

会場に着いたら、試合ができる服装に着替えて受付をしましょう。親やコーチにしてもらわないで自分自身でやりましょう。参加費が未納の場合には、試合の前に払っておきます。トーナメントが公認試合である場合には、関東テニス協会に登録しているジュニアプレイヤーズ登録証を提示しましょう。

ドロウ又は掲示を見て、だれが相手で、何時に試合があるのかチェックしておきましょう。もしBYEを得たら、1回戦はないので待つことになります。

相手が全く会場に来ない場合にはW.Oとなり、あなたの勝利となります。他の人が1回戦をやっている間、待つことになります。

- ・RET(リタイア) … ケガ・病気などの理由で試合を途中棄権したとき
- ・DEF(デフォルト)… 試合前・試合中にコード違反をし、失格したとき
- ・WO(ウォークオーバー)… 相手選手の遅刻、出場辞退などで不戦勝になったときおよび対戦する両選手が現れなかった場合
- ・No Show(ノーショウ)… 決められた時刻に現れなかったことを意味します

2. 試合の進行

試合は、オーダーオブプレイのボードを使って進行する大会がほとんどです。下記のような形になっています。

次の試合の順番になったら、ボールを取りに競技本部に行き、自分の試合が予定されているコートの近くで待機しましょう。前の試合が終わったらすぐにコートに入って試合を始めます。(ジュニアの大会では、試合前のウォーミングアップの時間は3分くらいです。すぐに試合を始められるように準備をしておきましょう。)

オーダーオブプレイ

	コート1	コート2	コート3
START AT 9:00	18BS 1R 1. 関東 VS 2. 東京	16GS 2R 15. 神奈川 VS 16. 千葉	14BS QF 16. 埼玉 VS 17. 群馬
次の試合	12BS SF 1. 栃木 VS 9. 茨城	18GD F 1. 山梨・甲府 VS 32. 横浜・川崎	14GD 2R 25. 柏・松戸 VS 28. 浦和・大宮
NOT BEFORE 12:00	16GS 3R 17. 新宿 VS 24. 久我山		

SA(START AT) : 試合開始時刻 B : 男子 G : 女子 S : シングルス
D : ダブルス R : ラウンド (回戦) QF : 準々決勝 SF : 準決勝
F : 決勝 NB(NOT BEFORE) : 前の試合が終了しても表示した時刻までは試合を
始めない。

Follow By : 待機

3. 試合の服装

テニスウェアを着ましょう。遊び着や練習用シャツで試合をすることはできません。試合にふさわしいかどうかの最終判断はレフェリーがします。服装や用具につけるロゴマークに制限がある大会では事前に確認し用意していきましょう。ウェアを裏返ししたり、テープを貼ったりしたものは、不適切なウェアとして着ることはできません。

4. 試合までの待機

多くのジュニアトーナメントでは、日程の初めは多くの試合が予定されています。受付のとき、あなたの試合の予定時刻を知らされますが、予定時刻になっても順番が来ないといってトーナメントの主催者を困らせないようにしましょう。自分の名前がオーダーオブプレイのボードに貼り出されるまで待ちましょう。

もし、相手が来ない場合には、ウォークオーバーになるでしょう。しかし、この決定はレフェリーが行います。

トーナメント会場では、練習するコートがあるのはまれです。もし空いているコートがあっても、トーナメント役員の許可をもらわないで使用してはいけません。

食事、その他で会場を一時離れるときは、必ず競技本部に申し出て許可を得てからにしましょう。会場を離れている間に試合の順番となり、コートに入らない場合はノーショウとなり、相手選手のウォークオーバーとなります。

5. ジュニアの保護者、コーチの方へ

トーナメントを計画通り進行させるのはむずかしいことです。大会主催者は努力をしますが、限られた施設で試合を行いますので、なかなか計画通りに行かないことが多いものです。

ジュニアプレイヤーは試合を待つ間、友人をつくったりして案外気楽にふるまえるものですが、保護者、コーチの方は気が休まらないことでしょう。しかし、保護者やコーチが大会本部にクレームをつけたりすることは、大会の進行に混乱を引き起こすだけでなく、子供たちにも影響を及ぼすことになります。

ジュニアトーナメントは子供同士の試合であり、保護者、コーチの試合ではないことを認識してください。

第5章

試合の合間の行動

1. 試合の最後のポイントが終わったら

試合が終わったら、すぐにネットのところに行き相手選手に感謝して握手をしましょう。負けたからといってあいさつもしないで立ち去ったり、ふてくされたりしてはいけません。

あなたの試合のためのアンパイアに握手をし、役員やお世話になった人々に感謝しましょう。

スコアボードを元にもどし、必要な場合はコート整備をし、勝者が試合球を持って、すぐにスコアを報告してください。勝った場合には、次の試合の予定をチェックします。

ダブルスの試合にも出場している場合には、このスケジュールのチェックもします。

2. 連続して試合を行う場合

続けて試合に入る場合には、次の試合をする前に規定の休憩時間をとることができます。しかし、天候や進行の都合で役員が決定したときは、休憩時間が短くなることもあります。

日程通りに試合を進行させるために、1日に3セットマッチでシングルス、ダブルス合せて3試合行うこともあります。

3. 辛抱強く待つこと

次の試合を待つ間、他人のプレイをよく観察しましょう。しかし、プレイ中の人のじゃまをしてはいけません。

読書をしたり、次の試合にそなえて体を動かしたり、友人と談笑しながら時間を過ごすのもよいでしょう。ただし、路上や駐車場などコート外でボレーボレーをしたりするのは危

険です。

次に当たる相手がプレイしている場合には、よく観察しましょう。

上位の選手をよく観察しましょう。大会に参加することの意味ある点の1つは、より上手なプレイヤーのプレイを観ることができることです。

昼食に出かけるときには、必ず大会本部に申し出て、許可をもらってから出かけ、役員があなたを探しまわることがないようにしましょう。

食べたと感じられる程度の軽い食事にし、油こい食事はしないようにしましょう。

施設を大事に使用してください。あなたは、ビジター（お客）であることを忘れないようにしましょう。あなたの持物を放置したり、クラブハウス内を走ったりしてはいけません。飲物の空かんやゴミは決められたところに捨てましょう。ゴミ箱が設置されていない会場では各自持ち帰りましょう。

4. その日に会場を去る前に

大会本部で次の予定をチェックしないで会場を去ってはいけません。既に発表されている日程が変更される場合もあるので、次の日のスケジュールを確かめ、何時に来たらよいかを確認しておきます。

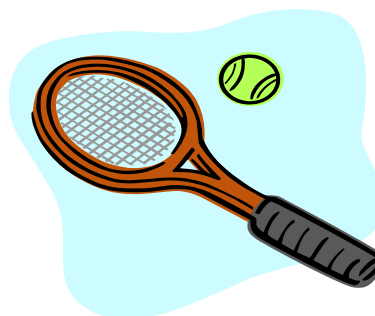
負けた場合には、役員の人たちに”ありがとうございました”とあいさつして帰るようにしましょう。

5. 自分のことは自分で

自分自身のめんどうは自分でみるものです。たとえ保護者が会場について来ていても、受付、試合時間の確認、スコアの報告、ボールの返却などすべての細かいことまで自分のことは自分でしましょう。ジュニアトーナメントはあなたのためにあるのであって、大人のためにあるものではありません。

試合中に口論となった場合でも、けっして保護者やコーチを連れて来てはいけません。ルールを学び、自分自身の意見を、はっきり言えるようになることもトーナメントでの経験の大きい成果です。

試合中に問題が起こった時には、後から本部に言ったり、保護者やコーチを通すのではなく、すぐに自分自身で役員やレフェリーに申し出ましょう。役員やレフェリーはすべての選手の話の公平に聞いてくれます。



第6章

よく起こる問題とその解決

1. エントリーを忘れること

トーナメントはエントリー締切日を厳密に守りますのでその締切日を確認してください。全国大会や関東大会のような大きなトーナメントでは、各地域または各都県協会の推薦が必要で、人数に制限があります。したがって、正しく申し込んだ人のうちから、成績により推薦された人が出場可能となります。

一度ドロウが成立した後に出場できる場合があるとすれば、上位の人が棄権したときなどに、その代りに出ることのみです。

2. 1日に多すぎる試合

1日に、シングルス、ダブルス合せて3セットマッチ3試合の試合数は運営の都合上ありえます。ラウンドが進行するに従って、手ごわい相手になることを考えて、エントリーする大会を選びましょう。

3. 交通機関の遅れ

公共の交通機関の事故は、遅刻の理由となる場合もあります。しかし、ウォークオーバーはトーナメントレフェリーの判断によって決定されます。公共の交通機関の事故にあった場合には、早い段階で大会本部に連絡し、駅で発行する証明書を持参すれば、大会運営に支障の無い範囲で、都合をつけてくれることもあります。ただし、大会によってはどんな理由でも遅刻が認められない大会もあります。

4. ドロウやシードが不公平

新人の多くは、なぜ、自分がトップシードの人と1、2ラウンドで試合をすることになるのかわからないものです。ドロウはルールに従って抽選で決定されていくものです。ドロウは公平に作成されるものであることを知れば、この文句は出ないでしょう。

5. 相手をごまかしている

無意識に誤ったコールをすることはだれにでもあるものです。相手が正直でないコールを続けていると感じたら、相手に伝えた後、速やかにトーナメントレフェリーやロービングアンパイヤに申し出ましょう。このような問題は、起こったときに自分で申し出ること、保護者に頼んで役員を呼んでもらったり、試合が終ってから文句を言っても受け付けられません。

6. 相手の親や関係者による妨害

あなたは、それらの人に妨害しないように頼む権利があります。もし続くなら、トーナメントレフェリーに困っていることを伝えましょう。

7. 騒がしい

正当な理由がある場合には、トーナメントレフェリーに観衆を静めてくれるように頼みましょう。

8. 緊急事態で次のプレイができない場合

次のラウンドをプレイできないことが明らかなきには、すみやかに大会本部に届けなければなりません。

第7章

コンピューターランキング

1. 公認ジュニアトーナメントのグレードについて

公認ジュニアトーナメント等のポイント対象大会にはトーナメントでの成績をポイントで計算するためにグレードがつけられます。

グレードは年頭に発表され、各大会の要項にも記載される基本グレードが1から4まであります。ランキングは、関東テニス協会ホームページ(<http://www.kanto-tennis.com>)で確認できます。携帯電話からも確認できます。

1) 基本グレード

グレード1 : (公財) 日本テニス協会主催の全国大会・小中高の全国大会

グレード2 : 関東テニス協会主催の大会・関東中学、関東高校大会

グレード3 : 都県テニス協会主催でクローズの大会と
関東中学都県予選、全国高校都県予選大会

グレード4 : 公認大会

A 地域性、時期などを考慮し、ドロー数がシングルス 32、ダブルス 16以上でかつシングルス 32、ダブルス 16 から 3 セットマッチで行うことを原則とした大会

B ドロー数がシングルス 16、ダブルス 8 以上でかつシングルス 16、ダブルス 8 から 3 セットマッチで行うことを原則とした大会

C 1セットマッチ（ノーアドバンテージを除く）以上

2) グレードによるポイントの考え方

18歳を最終の目標と定め強化していくために、すべてのジュニアが18歳以下のポイントを持つようにします。また、多くの大会に挑戦してもらい、それをポイントに反映させていくため、5大会の加算式となっています。（6大会出場した場合には、上位5大会を加算します。）

10歳以下の種目については、低年齢の怪我、故障の予防のためにランキング対象とはしていません。

2. ポイント表によるポイント計算

公認ジュニアトーナメントに出場したプレイヤーには、そのトーナメントでの成績に対してポイント表によりポイントが与えられます。

予選があるトーナメントでは、予選の決勝敗者が本戦の1回戦敗者の1ラウンド下の成績と考慮してポイントが与えられます。

BYEで2回戦より出場した場合、初回戦で負けたときは1回戦敗者と同じポイント、勝ったときはその後の試合結果によりポイントが与えられます。ただし、シードされた選手が1回戦をBYEで勝ち上がり、2回戦で敗れた場合も1回戦敗者のポイントが与えられます。予選・本戦に分かれている大会では、本戦ストレートインの選手が出場しなかった場合、ポイントは付与されません。予選を勝ち上がり、本戦を欠場した場合は理由に関わらず予選決勝敗者のポイントとなります。

また、大会の途中で棄権またはリタイアで負けた場合は、勝ち進んだ回戦(ラウンド)のポイントが与えられます。

大会に申し込んでドローに氏名があっても、出場しなかった場合は理由を問わずすべて0ポイントとなります。

ポイント表は毎年(2月上旬頃)、関東テニス協会ホームページにて発表されます。

第8章

付 録

1. セットブレイクルール

各セットの第1ゲーム終了後とタイブレイク中は、プレイは連続的でなければならないという規則により、休憩なしでエンドを交代しなければならない。各セットともセットが終了したときは、そのセット最終ゲーム最終ポイントが終了したときから、次のセット第1ゲーム第1ポイントのサービスが打たれるまでの間最長120秒間の休憩をとることができる。（このセット終了後の120秒間の休憩をセットブレイクと呼ぶ。）

2. タイブレイクセットの方法

タイプレイクは6ゲームオールになった時に行われます。

その進め方は次に示す通りです。

- (1) サービスの順とサービスサイド
第13ゲーム目をサーブする順番のプレイヤーが最初の1ポイントをサーブします。第2ポイント、第3ポイントを相手がサーブし、その後は2ポイントごとにサーブを交代します。
最初のポイントは右サイドから、次は相手が左サイドから、次に右サイドからサーブをします。続けて奇数ポイントは右から、偶数ポイントは左からサーブします。
- (2) 2ポイント以上の差をつけて7ポイントを取ったプレイヤー(または組)がそのゲームおよびそのセットの勝者となり、スコアは7-6と記録されます。6ポイント・オールとなったときは、一方のプレイヤー(または組)が2ポイントの差をつけるまで続けられます。
- (3) タイブレイクゲームでは、「ゼロ」「ワン1」「ツー2」「スリー3」・・・と得点を数えま
- (4) 6ポイント終了ごとにエンド・チェンジ(コートの交代)をします。タイプレイクゲーム中のエンド・チェンジは20秒以内で休憩時間はありません。
- (5) タイブレイクゲームの次のセットの第1ゲームはタイプレイク第1ポイントのサーバーがレシーバーとなります。

3. セルフジャッジの方法(ガイドライン)

アンパイアのつかない試合形式で選手自身が判定とコールすることをセルフジャッジと言い、次の通り行います。

- (1) サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。レシーバーは同意を示すために声またはジェスチャーで合図を送り、両方でスコアを確認しながら進める。
- (2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。
- (3) 判定とコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに行う。
- (4) 「アウト」または「フォールト」とコールした直後に、プレイヤー自身がグッドと訂正した場合、そのプレイヤーの失点となる。
- (5) ダブルスの判定とコールは、1人の選手が行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。
- (6) クレーコートでは、相手選手にボールマークの確認を要求できる。必要であれば、相手コートへ行ってボールマークを見ても良い。ただし、必要以上にBMI(ボールマークチェック)を申し出る選手には、レフェリーが適切な処置を取る場合がある。クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
- (7) サービスのレットはレシーバーがコールする。誤ってサーバーがサービスのレットをコールしたときは、以下の判断が下される。
 - ① そのコールによって、プレイが停止された場合は、サーバーの失点
 - ② そのコールにレシーバーが同意した場合は、サービスのレット

- ③ そのコールにかかわらず、プレイが続きポイントが終了した場合は、ポイントが成立する。
- (8) インプレー中、他コートからボールが入ってくるなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレイを停止し、そのポイントをやり直す。
ただし、「レット」がコールされたとき、次のような場合は「レット」は取り消されポイントが成立する。
 - ① 「レット」がコールされる前に打たれたボールが、正しくコートに入らなかった場合は、そのボールを打った選手の失点となる。
 - ② 「レット」がコールされる前に打たれたボールが、明らかなウィニングショット、またはエースとなった場合は、そのボールを打った選手の得点となる。
- (9) インプレー中、プレイヤーがラケット以外の着衣、持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合は、レットをコールしてプレイを止め、ロービングアンパイアに申し出る。
- (10) スコアがわからなくなったときは、双方のプレイヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレイで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなったときも、同様に処理する。
再開するときのエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。ただし、ゲームスコアが訂正され、再開する場合は、次のサーバーに交代しなければならない（同じプレイヤーが2ゲーム連続のサーバーにはなれない）
- (11) 次の場合にはレフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
 - ① 試合中に、トイレ、着替えなどでコートを離れたい時
 - ② 相手選手の言動やコール、フットフォールトに疑問がある時
 - ③ プレイヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった時
 - ④ 怪我や体調不良でメディカルタイムアウトを取りたい時
 - ⑤ リタイアしたい時
- (12) 試合終了後、勝者は速やかに大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。

4. いろいろな試合方法

- (1) 8ゲームズプロセット
2ゲームの差をつけて先に8ゲームを取った方の勝ちとなる。8ゲームオールになったときにタイブレイクをします。
- (2) ノード方式
両方のプレイヤーが3ポイント取って40-40「デュース」となったら、次の1ポイントでそのゲームの勝敗を決めます。そのときレシーバーはレシーブする場所をコートの右にするか、左にするか選ぶことができます。
- (3) マッチタイブレイク（7ポイント・10ポイント）
1セットオールになったときに、ファイナルセットをプレイする代わりにタイブレイクを行います。2ポイントの差をつけて7ポイントまたは10ポイント先に取った方がその試合の勝者となります。

禁 転 載

関東テニス協会並びに同ジュニア大会運営委員会の許可なく転載または複製を禁じます。

ジュニアプレイヤーの テニスハンドブック

1983年3月25日 発行
2008年12月1日 第11版発行
2011年11月28日 第12版発行
2016年1月29日 第13版発行

発 行 者 関東テニス協会
編 集 者 関東テニス協会ジュニア大会運営委員会
印 刷 所 株式会社 創美
〒162-0851 東京都新宿区弁天町2番地16
電話 (03) 5155-6723

発 行 所 関東テニス協会
電話 (03) 3374-3008
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2
朝日生命幡ヶ谷ビル2階